NPO法人シニアネット久留米広報　2022年(令和4年)9月1日

# SNK

SENIOR　NET　KUREME

編集発行:NPO法人シニアネット久留米
発行人:理事長　牟田慎一郎
〒830-0851　久留米市御井町387
府中公民館内　TEL:0942-65-4545
事務局mail:snkpost@view.ocn.ne.jp
ホームページ:http://www.snk.or.jp

Vol. 78

## ■ 津福サロンの軌跡

今津一躬

津福サロンは1999年9月に設置され2022年6月4日解体され23年の役割を終えました。その軌跡を振り返ります。

津福サロンは1999年7月に廣津芳信さんの土地を有志4人で開墾し畑としてスタートしました。同年9月22日基山の久野さんからプレハブ小屋を譲り受け移設し、約半年　島井新一郎さんが日参して主導し内装工事、両側への軒拡張工事をしました。移設、電気、下水道その他費用は30万円という記録が残っています。

その後インターネット環境を整え、SNK会員の学習やサークル活動の場として使えるようになりました。

2000年11月13日、第1回うまかもんば喰う会が開かれました。最初の料理は「たいらぎのわた」でした。

2001年4月6日に月星化成（現ムーンスター）の施設を借り荘島プラザが開設され会員の活動の場は移って行きました。初期SNKは1998年設立され、2000年にはSIP（シニア情報プラザ）が開設され、市民向けIT講習が実施されました。なぜ、津福サロンや荘島プラザが開設されたのでしょうか？初期SNKはシニアに学習、働く機会を提供し、助成金を受ける事業活動などに重きを置く大きな目的に進みました。そこには会員のための学習の場やサークル活動など、楽しむ為の場がなかったのです。

残念ながら初期SNKは2003年には行き詰まり、全理事・事務局が解散し、同年4月新生SNKがスタートしました。

うまかもんば喰う会は楽しく集う中から、何人もの人材がSNKの運営に参加されました。顔を合わせて交流することの大切さが思われます。

**「津福サロン主な出来事」**

＊2000年12/9　竹炭焼き開始（竹林事業の始まり）
＊2001年8/19　四阿屋　涼山泊（森下邸）ソーメン流し
＊2001年10/7　第1回筑後川芋煮会
＊2007年12/29 第1回餅つき大会
＊2012年1～3月　津福サロン大改造　調理場、3号倉庫、囲炉裏、下水排水道の整備
＊2012年3/9　1本桜植樹
＊2014年4月　水道新設　SNKで募金￥35万円が集まる。
＊2022年3/27　最後の花見会

**「津福サロン撤収要点」**

＊2021年7/10　世話人会で撤収提案、10/23,12/12片付け
＊2022年4/15～撤収作業開始、6/3～４解体工事
　6/16　後片付け。作業日数9回、作業参加者延べ55名
＊クリーンセンターへの廃棄品処分、軽トラ14回4160kg
＊金属類回収売却、軽トラ7台1462kg廃品分別作業の成果
＊家電品の処分費節約

**「最後に」**

津福サロンの撤収は残念な思いがありますが、あちこちが老朽化していました。近隣に迷惑を掛ける前に、世話人会の皆さんを中心に汗を流して撤収作業をやり遂げたことは、**「本当に良くぞやれた！協力の力の素晴らしさ」**と思います。

これまで23年間この地を使わせて頂いた廣津芳信さんに無事にお返し出来て良かったと思います。心から感謝いたします。　津福サロンに参加され、支援して頂いた SNKの皆さんにお礼の気持ちを込めて報告いたします。

最後の花見

隠れ家の解体を話し会う
最後の芋煮会と芋煮

## ■ シルバー川柳

橋口哲男

・テーマ：日常生活
　忘れ物　声掛けてと　願う日々
　高齢者　頭痛腰痛　お財布痛
・テーマ：スマートホン
　タッチパネル　押し方悪く　画面消え
　スワイプと　スクワットの　区別不明

いつも行く病院待合室のメダカ水槽

## シニアネット久留米（SNK）賛助企業及び協賛団体

ＳＮＫの活動に暖かいご支援を頂いているる企業、団体様です。会員の皆様、機会があればご利用をお願いします。

- 岩田屋フード(株)
- 福岡安全センター(株)
- （有）くるめランチサービス
- (株)筑邦銀行
- NPO法人 たんがく
- 有機食品バイオジョイ
- (財)久留米観光コンベンション　国際交流協会
- おみその学校（有）カネダイ
- 比翼鶴酒造株式会社
- （株）アジア福岡パートナーズ　(AFP)

## ■ 令和4年5月28日交流会報告

交流部　三石勝也

2年以上続く新型コロナ禍、３年ぶりの交流会、SNK本部府中公民館の2階ホールでの開催としました。

交通の便を含め、出席者の数の心配もありましたが、36人の参加がありました。皆様の多大なご協力を頂き、楽しく、愉快に交流会実施することが出来ました。

今回、会員の皆様に作品出展をお願いした所、気持ちよく短期間に準備をして頂き、多くの出展を頂きました。どの作品も素晴らしく、一日の展示では「もったいない」と感じました。

くるめランチサービスさんのおいしいお弁当と、お茶菓子を開き、牟田理事長の挨拶、金子事務局長のお茶での乾杯で交流会がスタート。

ステージは例年通り、田中さんの名司会で楽しみました。

- SNKのレベル高さを示す、英語で歌う会のコーラスでスタート。88歳の末次さんも舞台に。
- 牟田さんのハーモニカ演奏。これ一つ持って国内海外の何処でも演奏する。最後の曲はウクライナ国歌。
- 幾野さんの皿回し、数年ぶりの舞台、急遽練習したので腱鞘炎になった。参加者が回っている皿を受け取り「どうだ！」、拍手喝さい。
- 隈さんのサックス奏者。我々世代の曲を軽やかに演奏。どこからともなく歌声が始まり、背筋を伸ばして紳士淑女の社交ダンス。負けじと、若い時にダンスパーティーで踊ったジルバも始まった。
- 突然の「ひょっとこ踊り」のお囃子が始まった。大学名誉教授、元JALのチーフパーサー、郵便局員がプライドをかなぐり捨てて、ひょっとこ面を付けて、丸山さんの後に、滑稽な仕草と足の運びで参加者の席を一周。皆、あっけに取られ、大笑い。
- 後は、ビンゴゲーム、みんなの歌、炭坑節の総踊りで終わりました。

今後のSNKの交流会の有り方、皆様の素敵な作品の展示会開催など皆様のご意見、お考えをぜひとも聞かせてください。お願いいたします。

最後に皆様のご協力に交流部一同感謝申し上げます。ありがとうございました。

突然のひょっとこ踊り。呆然と見つめる参加者

## ― 事務局だより ―

事務局長　金子忠次

**＜改めての事務局のご紹介＞**

滅多に事務局にお出でにならない方のために改めて事務局の概要をご紹介します。

事務局は高良山のふもと、高良下宮社横の府中公民館の中にあります。白い鉄筋の建物の１Ｆです。

地図はＳＮＫのホームページをご覧ください。

事務局のメンバーは５人です。月曜から金曜まで朝10時から午後４時まで開いています。曜日ごとに以下の４人のメンバーが交代で勤めています。

月曜日：橋口　　火曜日：丸山　　水曜日：太田
木曜日：橋口　　金曜日：馬場

ＳＮＫのことならなんでもご相談下さい。
電話・ＦＡＸは　0942-65-4545　です。
また事務局では野菜などの物品販売を行っていますのでご利用下さい。
・ＳＮＫ農園で作った新鮮・安心な野菜を１００円で販売
・ギリシャ産オリーブオイル、カネダイ味噌、ロースハムなどを時期を見て適宜販売しておりますので是時ご利用下さい。（メールでお知らせします）

事務局の部屋の半分は談話室になっています。テーブルとソファーがありますので５，６人でゆっくりくつろいでいただけます。隣が講座教室になっていますので、その時間待ちでもＯＫです。もちろん冷暖房完備！いつでも、だれでも自由にご利用できますよ。

**＜最近のトピックス＞**

・コロナ関連の支援金の一つとして「事業復活支援金」を国に申請し認められました。

金額は約９０万円でお陰様で今年度は赤字を免れることができそうです。

しかしＳＮＫは相変わらず赤字体質であることには変わりなく、助成金で助けられている間に、何とかして次の収益事業を育てて行くことが急務です。何もしないでいくとＳＮＫは数年で消滅してしまいます。

現在すぐに収益にはつながりませんが、三石理事を中心に「カブト虫の杜プロジェクト」の活動を進めています。ちょっとした　ボランティアの気分で活動に参加されませんか。活動を通じて知り合いづくりにもなります。皆さんのご参加をお待ちしています。

その他収益を期待できる事業の芽を探しています。アイデアをお聞かせください。

皆様の訪問を待っている事務局談話室

## 阿蘇大観峰に集合！

**丸山クルミ**

コロナで孫達と会う機会が無くなった私たちを気遣い、鹿児島の長女が一策を講じてくれた。

「大観峰できれいな朝焼けを見てリフレッシュしよう。11月26日６時集合」と呼びかけてくれた。都合のいい人集まれなので何人集まるかはお楽しみ⁉

こちらからは私達夫婦と孫、息子の４人、朝４時に出発。何人集まるかなあ～とワクワクしながら大観峰に急いだ。私たちが最後の到着で、鹿児島組が４人、熊本組が４人、合計12人２年３か月の再会に胸が熱くなる。

見たこともないような赤紫の素晴らしい朝焼けの中話が弾んだ。一番小さな熊本の孫娘５年生だったのが、背もとうに私を追い抜いて中学生、お姉ちゃんは高校生に。二人ともおませな少女となっていて何とも愛くるしい。

日の出前、東の空

大観峰のすばらしい景色を堪能し阿蘇神社へ。そして名物の赤牛牛丼を食べ、２時に別れを惜しみながら解散。楽しさ嬉しさが何年分か凝縮されたような一日を過ごさせてもらった。集まってくれたみんなに感謝感謝の一日でした。

## 弁当の味わい

**永松まゆみ**

コロナ禍と猛暑に苦しんでる世界中の全ての生き物たちはこれから何処へ向かうのだろうか？地球の異変は全て人類に責任がある。それは確かだと分かっていても一体私は何をすれば良いのかわからない。

今から50年前に結婚して3人の子供を育てた。幼稚園に入るとお弁当を作る毎日が始まり、下の子が高校卒業まで20年続いた。今の様な冷凍品やレトルト食品など無く、全て手づくりする毎日だったが、空になったお弁当箱で母親は幸せだった。

大学生になったら自立して自活することが約束事だったので3人とも次々に実家を出た。その後、3人は夫々の仕事に就き、結婚して子どもを2人ずつ儲け育てている。

振り返ってみると子どもを産み育てて、送り出すという当たり前のことを普通にやって来たけれど、母としてはこの20年間のお弁当作りがあったから子供たちは自信を持って自立した人生を進んでいる気がする。

共働きの今の時代は経済的には恵まれているかも知れないけど子供の孤食やヤングケアラーが社会問題になっている。これでは家族は幸せだとは思えない。

年寄りの冷や水かも知れないが、親は子供を守る義務を持って果たすべきだと思う。世界中から飢えと貧困を更には地球上から争いを無くす大きな原動力になる筈だ。

長男の弁当箱
ジャッカー電撃隊

## 来年は皆様の出番です！

**かぶと虫の杜プロジェクト**

かぶと虫の杜PJは例年通り4月末から５月初旬にかけて、上津小学校、津福小学校、下広川小学校。新たに御井小学校、小郡市味坂小学校、府中公民館の「ぎおんさん食堂」にあつまった子ども達に合計約500匹を配りました。

また、7月13日は御井小学校講堂で幼虫を配った３年生を集め、かぶと虫教室を開催しました。成虫の飼育方法を説明、他にモンシロ蝶、てんとう虫、蝉はどこで産卵するの？幼虫は何を食べるの？昆虫がいなくなったら自然はどうなるの？豆昆虫博士が一斉に手を挙げる。此方がタジタジになる質問。楽しいかぶと虫教室になりました。次は皆様が地域の小学校で実施する番です。

10月から竹林の整備に入ります。また、大学稲荷神社の傍に1000坪の竹林を管理します。津福サロンとは違ったSNKのたまり場を作ることも計画しています。学生ボランティアも動員して、活発な活動とします。

来年は多くの小学校でかぶと虫の幼虫を配布、かぶと虫教室が出来るようになります。そうすると時期が重なるので、皆様が主体になって学校に出向き、やって頂くことになります。

今、青少年アンビシャス運動支援の会の助成を受けていますが、この活動がSNKの活動として定着し、持続する活動にするには、基金が必要です。皆様の志をお願いします。ご協力を宜しくお願いします。

先生も写真を撮る

優しい男の子

凄ね！と幼虫を手渡し

小学生の前で昆虫とは

## 私とスリランカの関わり

**牟田 慎一郎**

1990年5月5日（こどもの日）の朝日新聞に「月2000円、アジアの子が進学できる～教育里親募集」という記事が掲載された。

「教育里親募集」をしていたのは、ＣＰＩ教育文化交流推進委員会というちょっとややこしい名前のグループで、インドネシアとスリランカのこどもの教育支援をしていた。ＣＰＩの頭文字は、The Committee for Promotion to Innovate Japanese People by Educational and Cultural Contact からとったもので、「教育文化的交流を通じて日本人を改革しよう」というもので、教育支援は手段であって、目的は自己改革を目指すという自分自身の思いと一致した。

Chandra（13）

インドネシアとスリランカの経済レベルをくらべたら、スリランカの方が低く、同じ2000円だったら、スリランカの方がより効果があるのではと、翌1991年からスリランカの当時13歳の女の子Chandraちゃんの教育里親となった。

その後の展開は、目まぐるしいものとなった。1992年CPIの理事、1993年里子の代表団を福岡に招聘、1994年は、里子に会いに初めてスリランカを訪問した。初めての里子との対面は感動的だった。スリランカのこどもたちは、目を輝かしていて、礼儀正しく、経済的には貧しいが日本のこどもたちよりよっぽど心豊かではないかと感じた。

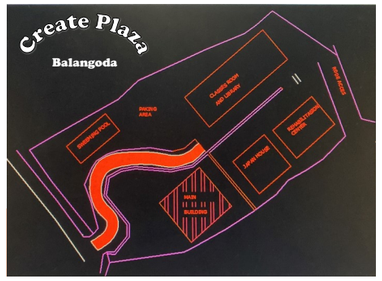
スリランカの留学生との交流から、1995年に西日本スリランカ留学生協会を設立してアジアマンスに紅茶の店を出すようになり、２年後、その収益金でスリランカの大学生に奨学金を出そうと、西日本スリランカ奨学金協会を設立。財務理事となった。

私のゲストハウスに泊まったAjithさん夫妻（中央）

1999年に、留学生の一人が結婚するということで、２度目のスリランカ訪問。2003年に当時ボランティアをしていたAPCCの国際ボランティアプロジェクトで大学生５名と３回目の訪問。

2004年12月にスマトラ沖地震で、スリランカも3600人が犠牲となり、津波で親を亡くした子供たちの生活支援をする津波里親プロジェクトを発足。300名を超える里親の応募があり、３年～５年の間支援を続けた。

2007年からは、CPIのツアー担当となり、毎年スリランカを訪れることとなった。コロナ感染拡大で３年ほどのブランクがあったが、今年３月、３番目の里子が結婚するということで、19回目の訪問をした。この訪問では、数年前に日本を訪問したとき私のゲストハウスに泊まっていただいたAjithさんが、空港へ迎えにきてくれて、スリランカルピーに両替することもなく２週間フルアテンドしてくれた。




その時、友人のAjithさんから、ビッグサプライズがあり、なんと私のCreate Plaza構想に賛同して、自分の家と敷地を提供するというのである。

その時知ったのであるが、彼は、建築設計施工をする会社を経営していた。そして、図面まで作ってくれていた。

彼の家は、Balangodaという標高600mほどの高地にあり、部屋が10ぐらいある３階建てのゲストハウス風の建物が建設中であった。

この８月には、20回目の訪問を企画していて、現地の高校生たちと一緒にクリーンキャンペーンも展開する計画である。

これからもスリランカとの関わりがますます増え、楽しみ満載である。

Create Plaza 本館の設計図

## はがき随筆

**蝉の声　　福田洋一**

小学校四年生のとき福岡大空襲で被災し、祖父母と共に焼け残った倉で暮らしていたが、度重なる空襲や深刻な食料難などから戦況は大変厳しいと感じていた。

昭和二十年八月十五日は雲一つない快晴、空襲警報もなく静かで聞えるものは蝉の声ばかり。重大放送があるというので近所の家でラジオを聞かせてもらった。よく聞き取れなかったが日本が連合国に降伏したとのことだった。

これからどうなるか分からなかったがやっと戦争が終わった、もう空襲もないとほっとして鳴り響く蝉の声もいつもとは違って聞えた。

敗戦の空に轟く蝉の声

（毎日新聞筑後版2021年7月31日掲載）

総務省HPより　福岡市における戦災の状況　玉屋デパートから